

学校教育目標	<ul style="list-style-type: none"> よく考える子 思いやりのある子 たくましい子 	ビジョン	【目指す学校像】	・児童が願いをもって、生き生きと学習し、思いやりの心をもって明るく活動し、健康や安全に気を付けて力一杯運動している学校
			【目指す児童・生徒像】	・伝え合い・学び合い・高め合う児童
			【目指す教師像】	・教育公務員として自覚をもち、協働体制を確立し、教育活動を推進する教師

領域	中期経営目標 (3年間)	短期経営目標 (1年間)	具体的方策	取組指標	評価	成果指標	評価	自己評価結果の分析	学校関係者評価	評価	次年度への改善策
確かな学力	基礎・基本を大切に、分かる授業の実践に努める。(休校時の学習内容の定着・授業改善・学習指導要領の完全実施)	読み書き、四則計算の力を定着させる。	授業、ベーシックドリル、eラーニング、日常の小テスト、力試し、補教教室宿題、家庭学習、ラボ等	4 漢字、計算の定着を90%以上図った。 3 漢字、計算の定着を80%以上図った。 2 漢字、計算の定着を70%以上図った。 1 漢字、計算の定着を70%未満。	3	4 全国学力 2教科平均 -0.85 3 全国学力 2教科平均 -1.85 2 全国学力 2教科平均 -2.85 1 全国学力 2教科平均 -2.85未満	2	都の意識調査では学習意欲の高い学年とそうでない学年があった。	意欲をもたせることは、学校だけでなく社会生活の中でも大切である。さらなる授業改善を期待する。	B	単元導入時に工夫を図って、興味・関心をもたせて学習意欲の継続に繋げていく。
		朝読書、読書旬間等で意欲を高め、学年相応の読書をさせる。	月曜日、金曜日の朝読書、図書館利用、図書の貸し出し活用、読み聞かせ、昭島エンシスの勧め	4 読書計画に基づいての実施率100% 3 読書計画に基づいての実施率90% 2 読書計画に基づいての実施率80% 1 読書計画に基づいての実施率80%未満	2	4 目標冊数・ページ数の達成率95%以上 3 目標冊数・ページ数の達成率87%以上 2 目標冊数・ページ数の達成率80%以上 1 目標冊数・ページ数の達成率80%未満	4	推薦図書を厳選したことにより児童の読む意欲が向上した。	借りた本を手提げに入れて、下校する児童を見る。家庭の協力も大切である。	A	学校内では読書をする。家庭との連携を図り、自ら読書をする児童を育てていく。
		学年相当の時間(学年×10分)に基づいた家庭学習を推進させる。	自己の課題克服 グットライフ調査 宿題+自学自習	4 各学年家庭学習実施率95%以上 3 各学年家庭学習実施率92%以上 2 各学年家庭学習実施率90%以上 1 各学年家庭学習実施率90%未満	2	4 授業は分かりやすい99%以上 3 授業は分かりやすい98%以上 2 授業は分かりやすい97% 1 授業は分かりやすい97%未満	4	「授業は分かりやすい」と感じている児童は99.5%と多い。	先生方の努力が数字に表れている。今後も丁寧な指導をお願いしたい。	A	「分かりやすい」=「理解」=「定着」となるように繰り返し、復習に力を入れていく。
豊かな心	生命を尊重し互いに認め合える、豊かな心を育てる。	様々な体験を通して、心の交流を(児童・教師)図る。	縦割り班活動 奉仕御活動 栽培活動、人権の花 通常の学級と固定学級	4 児童の積極的参加を100%にする。 3 児童の積極的参加を90%にする。 2 児童の積極的参加を80%にする。 1 児童の積極的参加を70%にする。	3	4 相談できる先生がいる100% 3 相談できる先生がいる95%以上 2 相談できる先生がいる94% 1 相談できる先生がいる94%未満	2	相談できる大人がいるが92.9%であった。相談できる先生→相談できる大人に変更したため	親に相談することは、経験上あまりなかった。周りの大人もしっかりと支えていくことが大事である。	B	交流→信頼関係→相談となるように、日常の声かけをして大人に相談できる体制を整備する。
		教室・学習環境を見直し、すべての児童にやさしい学校・学級にする。	児童理解に努め、個に応じた指導を進める。	4 市UDチェック④項目できている。 3 市UDチェック⑧項目できている。 2 市UDチェック⑦項目できている。 1 市UDチェック⑦項目未満できている。	3	4 落ち着いて生活できている96%~100% 3 落ち着いて生活できている91%~95% 2 落ち着いて生活できている90% 1 落ち着いて生活できている90%未満	2	知的固定学級との交流もあり職員のユニバーサルデザインへの意識は高まっている。	小規模校のメリットでアットホームな雰囲気を感じる。共生社会への意識を無意識の中で培ってほしい。	B	学習が分かる=充実感=心の安定=良好な人間関係を築くために、学習指導力の向上を図る。
		学校生活をより楽しいものにする。	授業、特別活動、交友関係の充実	4 楽しくする工夫をしているか95%以上 3 楽しくする工夫をしているか90%以上 2 楽しくする工夫をしているか85%以上 1 楽しくする工夫をしているか85%未満	3	4 学校生活は楽しい96%以上 3 学校生活は楽しい91%~95% 2 学校生活は楽しい90% 1 学校生活は楽しい90%未満	3	コロナ渦での教育活動への工夫とともに、学校でみんなと学習できる喜びを感じている。	学校を楽しんでいるのが一番である。先生方の工夫、努力を感じる。	A	小規模校ならではのアットホームな活動、雰囲気を通して、居心地のよい環境をつくり続けていく。
健やかな体	丈夫な体とたくましい心を育てる。	児童の基礎体力の向上を図る。	元気アップガイドや学習カードを活用して、運動の学び方を身につけて体力をつける。	4 元気アップガイドの活用週4回以上 3 元気アップガイドの活用週3回以上 2 元気アップガイドの活用週2回以上 1 元気アップガイドの活用週2回未満	2	4 体力が付いてきている95%以上 3 体力が付いてきている91%~94% 2 体力が付いてきている90% 1 体力が付いてきている90%未満	2	教育活動に制限がある中で体力は、昨年度に近い状態で維持することができた。	団地周りで体を動かして楽しく遊んでいる姿をよく見る。密を避けての運動をどんどん実施してほしい。	B	「心身共に健康」ということを振り返りを通して、意識付けをしていく。(マイキャリアパスポート等を通して)
		健康教育、食に関する指導を推進する。	担任の声かけ 視覚的な掲示 食のバランス意識 残さいのおにぎり換算	4 週のうち完食が4回 3 週のうち完食が3回 2 週のうち完食が2回 1 週のうち完食が1回	3	4 給食残さい率2.1% 3 給食残さい率2.2% 2 給食残さい率2.3% 1 給食残さい率2.3%未満	4	残さいが2.1%以下ということは、毎日400食近い給食の提供で2kg~3kgの食べ残しである。	「もったいない」という意識は重要である。食をもとにいろいろなことに目を向けて、SDGSに繋げることを期待する。	A	季節、献立、学年、学級によって、残さいの差がなくなるようおかわりのしやすい雰囲気づくりをしていく。
		自分の命は自分で守る。	手洗い、うがい、咳エチケット、体温三密等	4 通年での新生活様式の確立 3 校庭での遊びでの配慮 2 自己の健康管理と他への配慮事項 1 いつでも、どこでも実践するよう指導	4	4 保健室けが病気来室割合1.9%以下 3 保健室けが病気来室割合2.5%~2% 2 保健室けが病気来室割合2.6% 1 保健室けが病気来室割合2.6%未満	3	病気等の予防対策として手洗い・うがい・マスクの効果は、とても大きいことを改めて認識した。	マスクをしっかりとしている姿を見かける。習慣化していることがわかる。	A	学習と同様に予防の基礎・基本を今後も徹底していく。そのためにも家庭との連携を図る。
輝く未来	自分の将来を見つめ、自らの生き方を考える力を育てる。	将来の夢を児童にもたせる。	職場体験 マイキャリアパスポート 家族の職業について理解を深めさせる	4 生き方について考える機会を与えた76%以上 3 生き方について考える機会を与えた71%~75% 2 生き方について考える機会を与えた63%~70% 1 生き方について考える機会を与えた62%以下	2	4 将来について考えることがある93%以上 3 将来について考えることがある89%以上 2 将来について考えることがある88% 1 将来について考えることがある88%未満	2	社会状況から将来について考える児童が85%以上になってきた。コロナ渦前より増加した。	職場体験や地域行事ができなかったことは残念であった。早く通常に戻ってほしい。	B	地域社会と関わる機会を例年通りに設定し、感染防止を図り、実施できるよう工夫する。
		基本的な生活習慣の確立を図る。(今やるべきことの確認)	早寝、早起き、朝ごはん	4 90%以上の教員が意識して家庭・児童への啓蒙をした 3 86%~90%の教員が意識して家庭・児童への啓蒙をした 2 71%~85%の教員が意識して家庭・児童への啓蒙をした 1 70%以下の教員が意識して家庭・児童への啓蒙をした	4	4 早寝、早起き、朝ごはんを実践できた96%~100% 3 早寝、早起き、朝ごはんを実践できた91%~95% 2 早寝、早起き、朝ごはんを実践できた84%~90% 1 早寝、早起き、朝ごはんを実践できた84%未満	3	元気アップガイドを活用し、特にグッドモーニング60分を通して家庭の協力も得ることができた。	田中地域は、地域や学校に協力的な家庭が多い。これからもみんなで力を合わせていきたい。	A	生活習慣が確立されている児童は、学校生活でも良好傾向である研究結果をさらに進める。